

愛と追憶の日々(Terms of Endearment)

観賞日 2024年3月11日 上映時間 132分

【概要】

制作 1983 アメリカ

監督・脚本 ジェームズ・L・ブルックス

原作 ラリー・マクマートリ『Terms of Endearment』

音楽 マイケル・コア

撮影 アンジェイ・バートコウィアク

出演 シャーリー・マクレーン(オーロラ・グリーンウェイ)

デブラ・ウィンガー(エマ・グリーンウェイ)

ジャック・ニコルソン(ギャレット・ブリードラヴ)

ジェフ・ダニエルズ(フラップ・ホートン)、リサ・ハート・キャロル(パッツイ・クラーク)



【あらすじ】

アメリカ南部テキサス州、ヒューストンに住むオーロラとエマの母娘。二人は実の親子であるが、まるで親友のような風変わった関係にある。オーロラは未亡人であるが今でも魅力的な女性。エマは大学講師のフラップと結婚するが、フラップの存在を認めないオーロラは式にも出ない。やがて、フラップの新しい就職先が決まり、エマは長男トミーを連れて北部のアイオワ州に引っ越す。エマが遠方に引っ越してからも二人は長距離電話で連絡を取り合う。エマが3人目の子供を妊娠した頃、フラップの浮気が発覚、エマは経済的に窮乏するが銀行員のサムに助けられ、エマとサムは不倫関係になる。一方のオーロラは隣に住む宇宙飛行士のギャレットからデートの誘いを受ける。ギャレットは女癖の悪いデタラメ男であるがオーロラはなぜか心惹かれる。フラップの浮気現場を目撃したエマは子供たちを連れて実家に一時帰還し、オーロラは大喜び。エマはフラップとよりを戻すがそんなエマを今度は病魔が襲う。オーロラの懸命な看病にもかかわらず病状は回復せず、エマはオーロラ、フラップに見守られながら息を引き取る。長男、次男はオーロラ、長女はエマの友人のパッツイーが引き取ることに。葬儀の時、ギャレットが現れて…。

【解説】

■ポイント

●シャーリー・マクレーン(1934年～)

音楽家の父と女優の母との間にヴァージニア州で生まれる。弟はウォーレン・ベイティ、娘は女優のサチ・パーカー。1955年の「ハリーの災難」で映画デビュー。「走り来る人々」(1958年)でアカデミー賞主演女優賞にノミネートされ、その後も「アパートの鍵貸します」(1960年)、「あなただけ今晚は」(1963年)、「愛と喝采の日々」(1977年)で同賞にノミネートされ、本作で念願のアカデミー賞主演女優賞を受賞。政治活動にも積極的でリベラリストとしても有名。

●受賞(1984年第56回アカデミー賞)

11部門にノミネートされ5部門で受賞

作品賞、監督賞、脚色賞

主演女優賞(シャーリー・マクレーン)、助演男優賞(ジャック・ニコルソン)

■見どころ

●オーロラとエマの濃密な親子関係

●マクレーンとニコルソン、名優同士の共演

●最愛のエマを失ったオーロラは

